



このトップの経営戦略

ハ雲立つ出雲から「電波の雲」クラウドで
悠久の平和を生み出す「和の文化」の創造

小松電機産業人間自然科学研究所 代表 小松 昭夫

年間売上高30億円台の中堅企業

年間売上高30億円台の中堅企業ながら、1973年の創業から独創的製品を世におくり、高収益会社に成長させた。30年前に開発した『シートシャッター門番』と、15年前

に全国展開を始め、今で言うクラウドコンピューティングを世界で初めて水の遠隔管理に用いた「総合水管理システム」や「もくも水神」である。日本企業が得意とする「社会インフラ」の問題点が世の中に顕在化する前にヒト・モノ・カネの経営資源を投入し、その製品を产业化し新しい市場を確立』するマーケット創造型の経営者である。

年間20万回以上の開閉動作ができる「門番」は販売当初から国内外約70%のシェアをもつヒット製品となり、現在は国内外に約15万台が設置され、大手システムメーカーがござつて市場参入した。

NTTドコモのFOMA網を用いたクラウドシステムの『やくも水神』は、平成の大合併による上下水道

施設の広域化により散在する各施設を、タブレットやスマホによりリアルタイムで管理・制御でき、採用自治体にとってメーカー・大学などと協業の機会が増えることから急速に普及が進み、全国380自治体・8400施設で採用されている。

人類の戦争を終結させる活動
1977年に初の海外旅行先の韓国で、乗車したタクシーでトラブルに巻き込まれたのを契機に小松氏は日韓の歴史を研究。そこから

1977年に初の海外旅行先の韓国で、乗車したタクシーでトラブルに巻き込まれたのを契機に、小松氏は日韓の歴史を研究。そこから「日本列島と朝鮮半島に、人類の歴史上初めて『和の文化』を生み出す『平和の事業化』を必要とする時代がくる」との念が生まれ、88年に松江の若手経営者らで「知革塾」を

立ち上げ、発展させて94年にシンク＆ドゥタンク「人間自然科学研究所」（本部・松江市）を設立。「中庸」「和讓」「和」を座右の銘として、中国、韓国、東南アジア、ヨーロッパ、米国、露国の戦争記念館を訪問し、日本人として献花寄付をしてきた。

2013年、オランダ・ハーグ市の平和宮100年記念式典で、小松氏はビル・ゲイツ氏などとともに「平和事業家、世界の20人」に選ばれた。翌年6月オーストリアのウイーン



で開催された、女性初のノーベル平和賞受賞者で「武器を捨てよ!」を著したB・V・ズットナー女史没後100周年記念式典で、「8月15日を終戦記念日と定めた日本には、人類の戦争を終結させる使命がある」と世界に向け持論を展開、喝采を浴びた。また、論理学に精通した芸術家で、カーネギー財團の発注でズットナー像を作成したイングリッシュ・ロレマ女史との縁が生まれ、小松氏は2つのズットナー像制作をロレマ氏に依頼。ロレマ氏は小松氏の招待を受け昨年11月に、韓国の安重根義士記念館、板門店を訪れてから来日、松江市で開催したシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇る」で600人を前に講演した。同社ホームページに動画とともに詳しく記載されている。3体目の像は、日本の銅像産地の富山県高岡市で制作が進められている。